

平成19年度研究調査報告

- ・ 修学旅行の実施概況調査
- ・ 修学旅行の課題調査
「事前学習・事後学習の状況について」

平成20年3月

(財) 全国修学旅行研究協会

目 次

調査研究のねらい	1
調査の概要	
(1) 修学旅行の実施概況調査	
(2) 修学旅行の課題調査	
「修学旅行の事前学習・事後学習の状況について」	
修学旅行の実施概況調査	2
1 . 修学旅行の実施状況	
2 . 実施日数	
3 . 旅行方面	
4 . 実施時期	3
5 . 旅行費用	
6 . 体験学習の取り組み状況	
修学旅行の事前学習・事後学習の状況について	4
1 . 修学旅行の準備の取組み開始	
2 . 本年度修学旅行での各段階の時数	
3 . 学習内容を深めるための情報収集方法（複数回答）	7
4 . 事後学習でのまとめの方法（複数回答）	
5 . 時数確保の工夫と課題〈各地区〉	8
() 関東地区公立中学校修学旅行委員会	
() 東海三県中学校修学旅行委員会	18
() 近畿地区公立中学校修学旅行委員会	19
アンケート調査の結果から	22
まとめ	23

調査研究のねらい

修学旅行は、特別活動の内容の学校行事のうち旅行・集団宿泊的行事に位置づけられる。学習指導要領によると特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主性、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。また、旅行・集団宿泊的行事の「内容」は「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

これらの「目標」や「内容」をもとに各中学校ではさまざまな工夫をした修学旅行を実践しているところである。そしてまた、その修学旅行が物見遊山ではなく教育旅行である以上、各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動と関連を図り、事前及び事後の学習を適切に行なわなければならない。しかしながら、授業時間が削減され、放課後の活動に制約がある中での修学旅行の取り組みに苦勞しているのも現実である。

関東・東海・近畿三地区公立中学校区公立中学校修学旅行連絡会では修学旅行の充実のために、昨年度は年々増加している修学旅行での体験学習についての研究を進めて来た。教育としての修学旅行という観点から、指導や生徒の学習の時間を確保することが難しい状況の中でも、事前・事後の学習は欠くことができないものである。そこで今年度は、事前学習・事後学習の状況及びその課題についてのアンケートを実施し、三地区の全体把握と三地区それぞれの相違を比較し、各中学校の参考に供するとともに、修学旅行における事前・事後学習の更なる充実を図っていくことをねらいとして研究を進めた。

調査の概要

(1) 修学旅行の実施概況調査

調査実施時期 平成19年6月～11月

調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)、東海3県(岐阜・愛知・三重 但し、愛知県は県中学校長会調査データを使用)、近畿2府4県(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 但し、京都市、大阪市、神戸市を除く)の公立中学校

調査方法 アンケート記入式

調査対象校及び回答数

	関東	東海	近畿	合計
対象校数	1,383	780	1,042	3,205
回答数	1,194	746	974	2,914
回答率	86.3	95.6	93.5	90.9

(2) 修学旅行の課題調査「修学旅行の事前学習・事後学習の状況について」

調査実施時期 平成19年6月～11月

調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)、東海2県(岐阜・三重)、近畿2府4県(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 但し、京都市、大阪市、神戸市を除く)の公立中学校

調査方法 アンケート記入式

調査対象校及び回答数

	関東	東海	近畿	合計
対象校数	1,383	369	1,042	2,794
回答数	1,194	335	974	2,503
回答率	86.3	90.8	93.5	89.6

修学旅行の実施概況

1. 修学旅行の実施状況

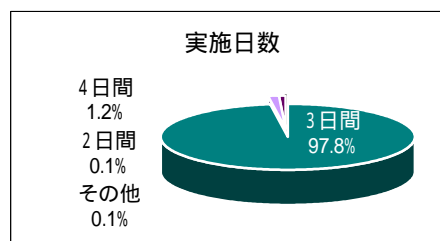
99.6%の学校が修学旅行を実施している。実施しない学校は、関東では「新設校(中高一貫教育校)のため」「海外研修を行っているため」、東海地区では修学旅行にかわり「海外研修を行っている」が実施しない理由となっている。

	関東	東海	近畿	合計
実施した	1,196	736	974	2,906
実施しなかった	2	10		12
合計	1,198	746	974	2,918

2. 実施日数

98%の学校が2泊3日で旅行を行っている。4日間の学校は、近畿、東海地区に多い。東海地区では車中泊を伴う学校や沖縄、東京での3連泊による。近畿地区では和歌山県南部が実施基準で3泊4日と地理的条件が加味されていることが多い。

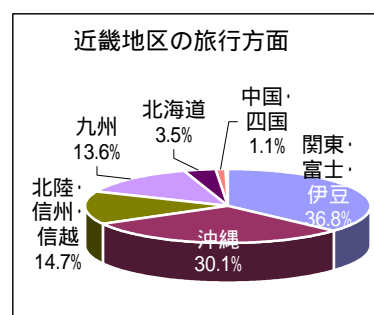
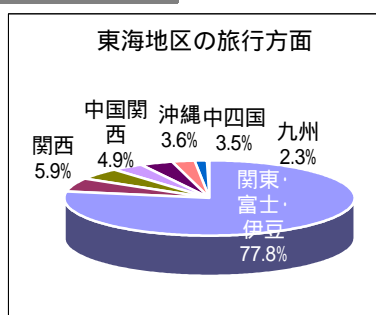
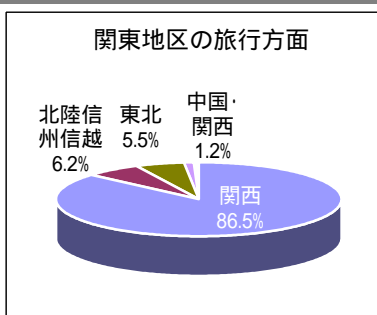
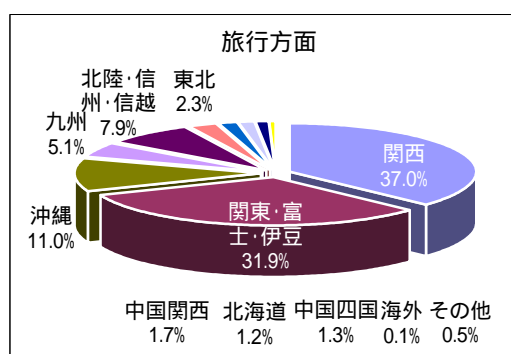
	関東	東海	近畿	合計
2日間	2			2
3日間	1,189	723	929	2,841
4日間	1	13	21	35
その他	1		1	2
未記入	1		23	24
合計	1,194	736	974	2,904



3. 旅行方面

主に関東及び関西方面に集中しているが沖縄方面も多い。飛行機の利用緩和に伴い、旅行先は全国に及んでいる。関東地区では関西方面が圧倒的に多い。東海地区は関東・富士・伊豆方面を主に関西・中国・沖縄と多方面にわたる。地理的位置が大きい。近畿地区は飛行機の利用が高く、沖縄・九州方面が最も多い。北海道への実施校が34校にのぼる。関東・東海では、海外への修学旅行がある。

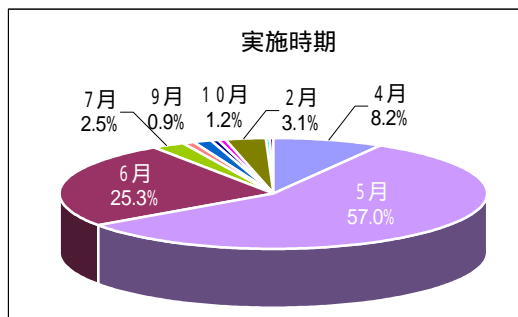
	関東	東海	近畿	合計
北海道	1	1	34	36
東北(会津・日光含)	66			66
関東・富士・伊豆	3	565	358	926
北陸・信州・信越	74	11	143	228
関西	1,032	43		1,075
中国・四国	1	26	11	38
中国・関西	14	36		50
九州		17	132	149
沖縄	1	26	293	320
海外	1	1		2
その他・未記入	1	10	3	14
合計	1,194	736	974	2,904



4. 実施時期

春の実施が圧倒的に多い。中でも5月に半数以上が集中している。冬2月に2年生での実施も関東・近畿地区でみうけられる。

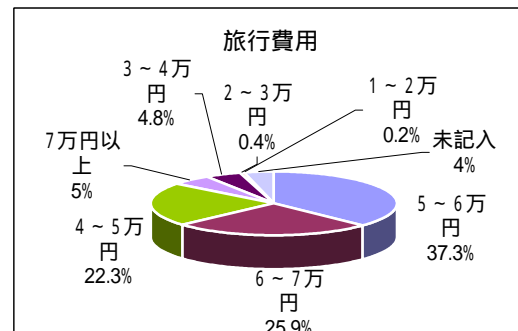
(校)				
	関東	東海	近畿	合計
4月	42	34	163	239
5月	660	405	591	1,656
6月	316	277	142	735
7月	71		2	73
8月	1			1
9月	20	4	2	26
10月		10	25	35
11月		2	2	4
12月	12			12
1月	17		3	20
2月	53		37	90
3月		1	7	8
未記入・不明	2	3		5
合計	1,194	736	974	2,904



5. 旅行費用

利用交通条件や実施の内容により各地区まちまちであるが、5万円台が多い。関東地区は5万円～6万円未満が多い。東海地区は地理的位置と実施方面から4万円～5万円未満が多い。近畿地区は沖縄・北海道への実施があり5万円～7万円未満と費用の幅が大きい。

(校)				
	関東	東海	近畿	合計
1万円～2万円		2	3	5
2万円～3万円	5	6	2	13
3万円～4万円	40	55	44	139
4万円～5万円	178	365	106	649
5万円～6万円	468	243	373	1,084
6万円～7万円	352	54	346	752
7万円以上	79	9	66	154
未記入	72	3	34	109
合計	1,194	737	974	2,905



地区別旅行費用の最高額・最低額・平均額 (円)

	関東	東海	近畿
最高額	84,000	80,000	99,580
最低額	25,000	20,439	18,000
平均額	56,482	56,769	57,780

東海地区は岐阜・三重のみ。海外は除く。

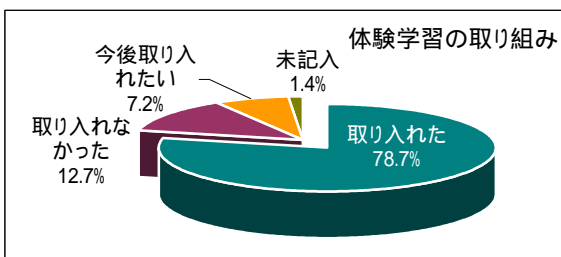
方面別旅行費用の平均額 (円)

旅行方面	関東	東海	近畿
北海道	84,000	80,000	63,498
東北(会津・日光含)	42,364		
関東・富士・伊豆	37,395	55,681	80,399
北陸・信州・信越	42,849	36,396	44,124
関西	58,228	31,647	
中国・四国	60,000	55,133	45,379
中国・関西	70,340	58,582	
九州		61,408	55,661
沖縄	84,000	64,309	62,140
その他			29,500

6. 体験学習の取り組み状況

体験学習は概ね定着している。今後も各学校が創意工夫を發揮しながら、体験活動の充実と実施の傾向は続くと思われる。

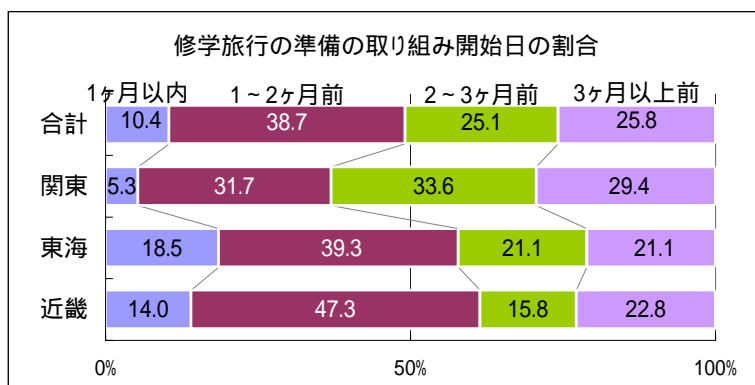
(校)				
	関東	東海	近畿	合計
取り入れた	981	557	748	2,286
取り入れなかった	86	151	132	369
今後取り入れたい	108	28	72	208
未記入	19		22	41
合計	1,194	736	974	2,904



修学旅行の事前学習・事後学習の状況について

各県数値は校数と構成比

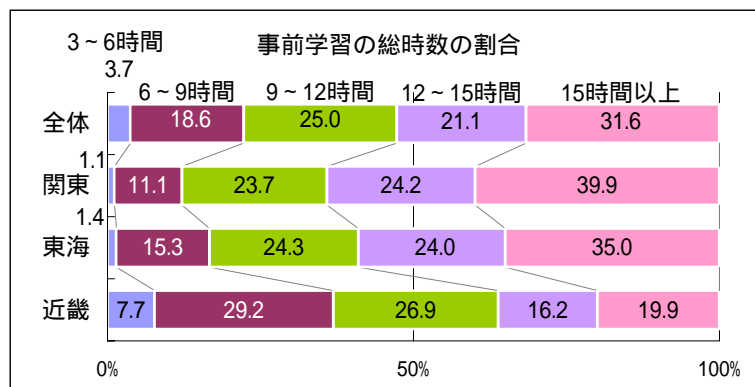
1. 修学旅行の準備の取組み開始日



- ・ 修学旅行準備開始日は、1~3ヶ月以上まで学校によって、かなりばらつきがある。
- ・ 関東、東海、近畿の三つの地域を比較すると、関東が比較的長めに準備期間を取っている。ついで、東海、近畿の順であるがその差は少ない。

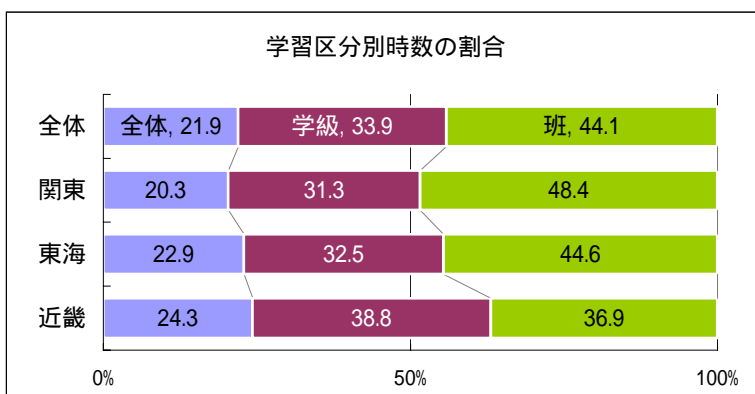
2. 本年度修学旅行での各段階の時数 1単位時間50分に換算

(1) 事前学習の総時数



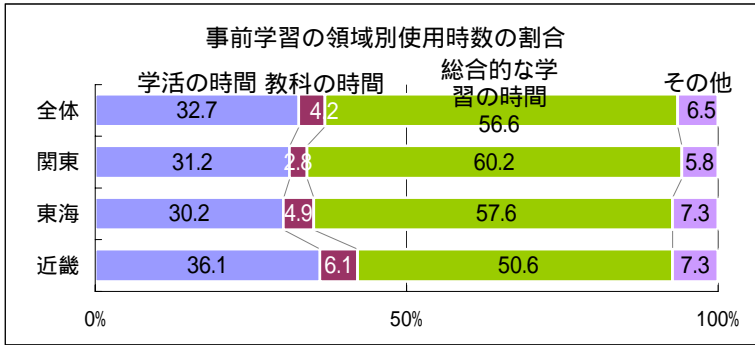
- ・ 関東は12時間以上が64.1%、関西は12時間以下が63.8%と正反対な関係となっている。東海はちょうどその中間的な位置にある。
- ・ 地域差と同様に、同じ地域内でも学校差が大きい。

事前学習の学習区別時数



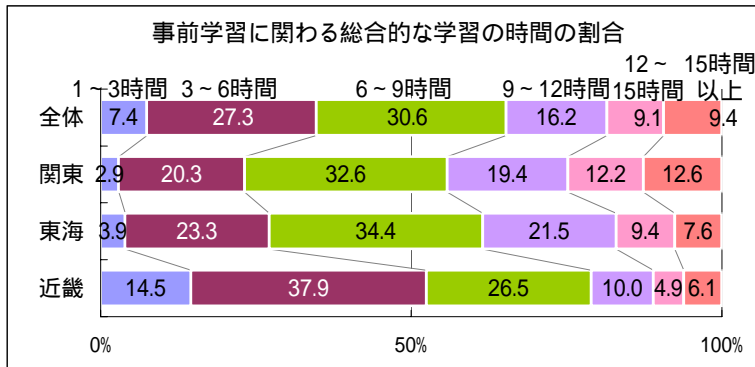
- ・ 関東は班における事前学習が半数近くになっている。東海も関東と似た傾向にあるが、西の地区ほど小集団の事前学習が少なくなっている。

事前学習の領域別使用時数



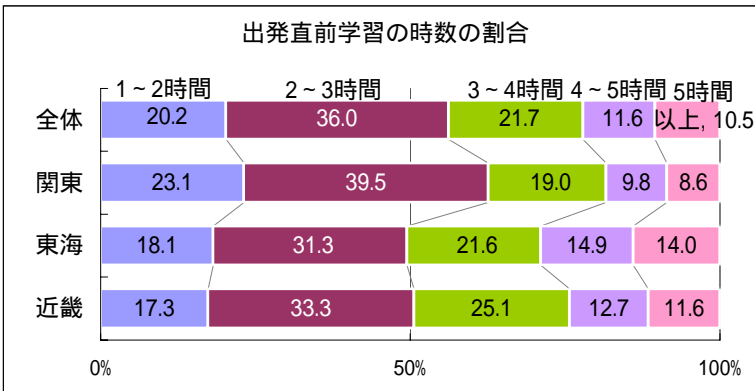
- ・ 関東、東海は似たような領域別割合になっているが、近畿は関東、東海に比べ、学活の時間が多く、総合的な学習の時間が少なくなっている。
- ・ 事前学習時間に於ける総合的な学習の時間がどの地域も50%を越え、総合的な学習の時間に負う所が大である。

事前学習に関わる総合的な学習の時間



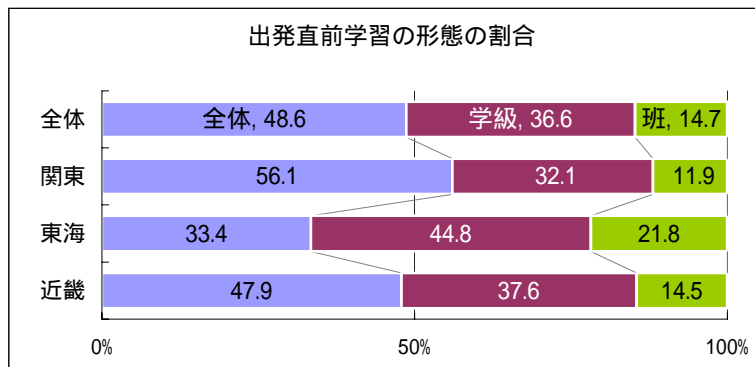
- ・ どの地域も3～9時間で過半数を占めているが、近畿は3～6時間にピークがあり、東の地域ほど多い時間帯に寄っている。前問での調査と重なる。

(2) 出発直前学習の時数



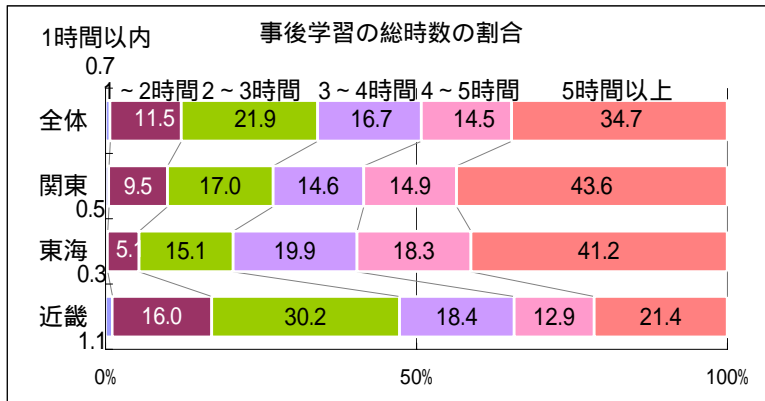
- ・ 出発直前学習の時数は、過半数が2～4時間の時間帯であるが、学校による差がかなりある。
- ・ 地域別に見ると、ほとんど同じような傾向がみられる。

(2) - 1 出発直前学習の形態



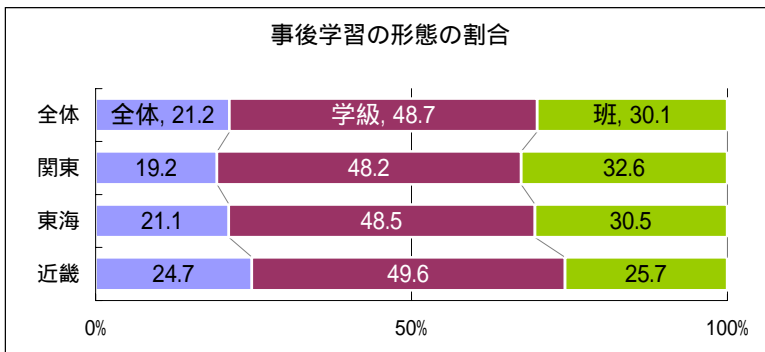
- ・ 出発直前学習では、全体学習の形態が多くとられている。更に、学級や班の形態で学習内容や約束事の確認などがなされている。

(3) 事後学習の総時数



- ・約50%が4時間以上の事後学習をしている。
- ・ここでも関東、東海が長め、近畿が短かめの時間帯の学習傾向が見られた。
- ・各校とも時間の確保に苦労している（後述の課題参照）。修学旅行後の様々な行事で時間の確保も難しいようである。

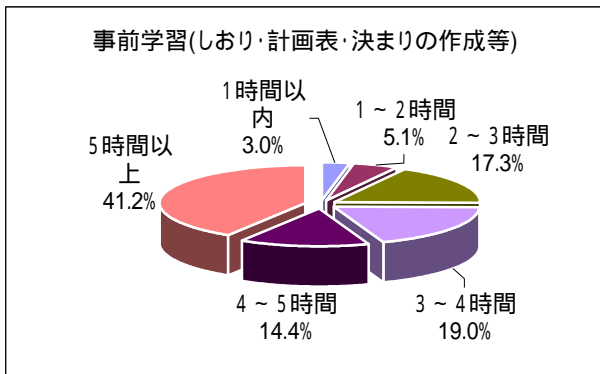
(3)-1 事後学習の形態



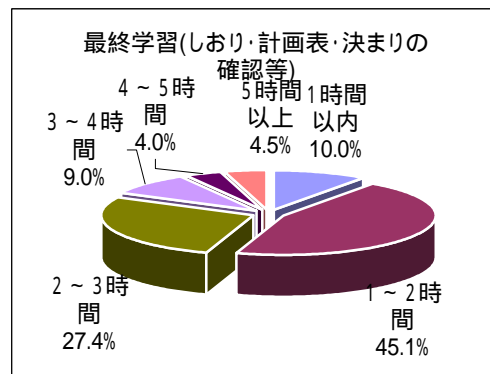
- ・全体報告会、報告会、保護者への学年集会、学年反省会等が記述の中に見られた。
- ・学級や班による新聞作りや班別学習のまとめの時間を確保している。

(4) 実行委員会・その他部会の時数

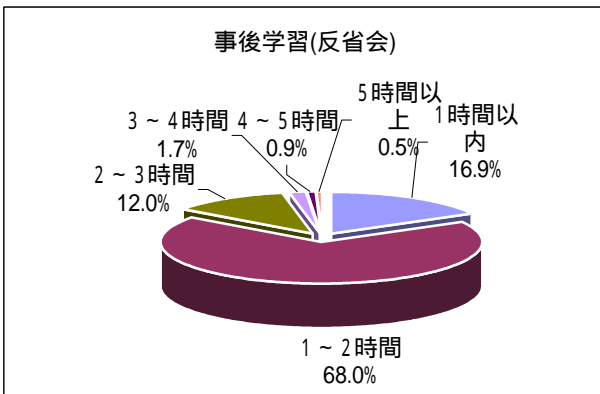
しおり・計画表の作成・各部会の決まり作成他



しおり・計画表の作成・決まり確認他

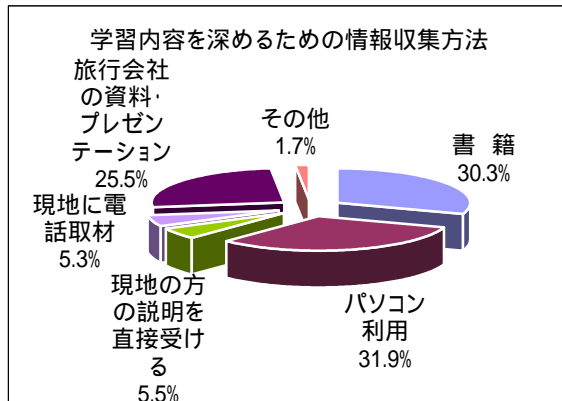


反省会



- ・生徒の主体的な活動を重視している傾向がある。
- ・事前学習に5時間以上が約41%、4時間以上になると55%以上になり、その重要性が伺われる。更に、事前準備には各委員個人による準備の時間が加わる。
- ・特に実行委員会などは、後述の課題にもあるように、時間の確保に苦労し早朝、休み時間、放課後、休日の活動も多い。

3. 学習内容を深めるための情報収集方法 (複数回答)

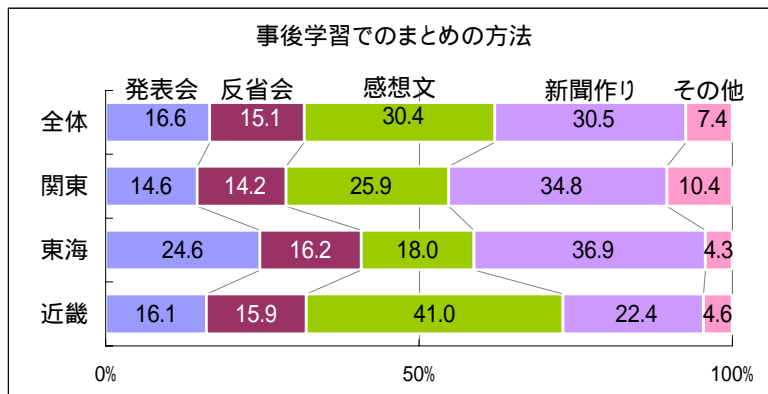


- ・旅行雑誌など多くの資料を使用している。
- ・班別学習が増加し、調べ学習にパソコンを活用しているが、大規模校ではパソコン教室の割り当てが少なく使えないケースも出ている。
- ・旅行会社の資料やプレゼンテーションも多い。
- ・まだ数は少ないが、現地の方に来ていただいて直接説明を聞いたり、現地の方に電話取材するケースも出てきている。受入側でも、学校のニーズに応えようとしている。
- ・その他少数意見も参考になるものが多くあるので、記述しておく。

その他主な内容

- ・現地タクシー会社からの資料
- ・下見、予察時の資料情報
- ・JR東海のCMを集めたVTRの視聴
- ・社会科での現地の地理、歴史学習
- ・市発行のパンフレット、VTR、DVD
- ・教師の説明、アドバイス
- ・過去の学習資料
- ・現地との手紙のやりとり、文通
- ・個人持ち資料
- ・シルバーガイド

4. 事後学習でのまとめの方法 (複数回答)



- ・個人またはグループによる新聞作りや感想文が多い。
- ・学級や学年全体の反省会や発表会も定番化している。特に東海地区に発表会が多い。
- ・その他の少数意見の中には学校や学年の特色が出されているものも多く参考になる。

その他主な内容

- ・教科との連携(絵巻作成・美術科、後輩のためのパンフレット作り・国語科)
- ・旅行記、旅ノート、紀行文、報告書(レポート)、文集
- ・俳句、短歌、英作文、文集
- ・記録集の作成(アルバム、スケッチブック)
- ・体験記録
- ・写真展、パネル作成
- ・ポスター作成
- ・総合学習での追求、結果のまとめ
- ・ホームページ作成
- ・ポータルフォーリオ作成
- ・次学年へのメッセージ作成
- ・ビデオ報告会
- ・プレゼン発表
- ・パワーポイントでの発表会
- ・評価カード、達成度評価カード
- ・アンケート調査
- ・感謝、お礼の手紙
- ・CM作り

5. 時数確保の工夫と課題 < 各地区ごとに集約 >

() 関東地区公立中学校修学旅行委員会

工夫

(1) 計画の立案と早めの取組み

計画の立案

- ・年間計画への位置づけ。
 - *すべての行事日程を把握し、きめ細かい計画の作成を心がけた。
- ・全体計画を綿密に立案すること。昨年度以前の使える資料はデジタル化し、共有出来るようにする。
- ・細かな全体計画を具体的に生徒に提示して、各時間の活動を明確にしている。
- ・より計画的な授業実践及び綿密な作業計画。
- ・3年間の旅行的行事のねらいを明確にし、長期的な見通しの中でプランニングした。
 - *2年生での校外学習と関連させ、効果的効率的に生徒が活動できるよう指導方法に工夫改善を図った。
 - *1年では宿泊を伴う学習、2年生では、JRを利用しての校外学習(1日)を行い、修学旅行に生かした。
- *ねらいと標準時数を提示
- *学年当初からの学活等の修学旅行までに学習する内容の計画を明確化しておく。
- ・事前に指導計画を立て、計画的に取り組みせ効率化を図った
 - *生徒の主体的計画と主体的実践 ・班長会の活動 ・短期間に集中した計画と合理的な計画
- ・学活の時間と総合的な学習の時間との関連付けをし年間指導計画に位置づけ
 - *総合的な学習の時間の活用と時数確保 指導計画の作成
- ・各教科、領域を横断したカリキュラムを工夫することで、より実りあるものになるのではないかと。(総合単元的なもの)
- ・教務と連携して特別時間割で行った。実行委員会は昼休み、放課後に行った
- ・町づくりについて考える学習の一つとして位置づけ現地調査等取り入れている

早めの取組み

- ・2学期末実施により事後指導の時間がゆとりを持って取れる。
 - *早めの準備委員会、事前学習、ルールや持ち物学年目標の設定、班別コース、実行委員会、
 - *早い時期(2年3学期から、12月から等いろいろ)から計画的に活動、生活のきまり等も前年度に決定しておいた。
- ・班別行動のコース(仮)を2学年の時に作成させていたので、3学年に入ってから計画作りがスムーズに進んだ。
- ・見学を希望する社寺についての事前学習は2年生の春休みの課題として取り組みせ3年次の事前学習は、班テーマやコース計画の立案に時数を確保する
- ・4月から計画的に事前準備(事前学習の係活動)を行った。

時数の確保

- ・生徒各々が明確な課題を持って修学旅行が行えるよう十分な事前学習の時間を設ける。
- ・特別活動の時間をうまく活用。
- ・学活の時間を中心にしてグループ活動の計画を立案、また放課後の時間も活用した
- ・正式日課になる前のオリエンテーション期間の学級・学年の時間を活用した。
- ・他の行事との兼ね合いでの時間の確保
 - *他学年の行事の時に、時間を確保)、家庭訪問(午後)の時に、学級担任以外の学年職員が指導する。
- ・時間割の工夫
 - *年間時間割を4パターンにして、修学旅行の事前・事後の時期は総合の時間が多いパターンの時間割にしている。
 - *本校独自の教育課程により、指導の時間を確保しやすかった。
 - *早めに準備に取り組んだために特に時数確保は問題なし。
 - *教科や選択などの時間も、計画的に使うと、もう少しゆとりを持って事前・事後学習ができるかもしれない。
- ・授業の組み替え、総合的な学習の時間のまとめどり等を行いました。
 - *教務主任との調整、時間割の変更・先取り等、
 - *45分短縮日課にして、帰りの会20分を40分にして活用。
 - *時間割を変更してなるべく学習の時数を確保した。
 - *総合、学活等を利用するので、時期でまとめ取りを行い、授業の交換等を行って時数の確保に努めた。
 - *学活の時間をまとめ取りし(2時間通し)効率アップを図った。
 - *共通理解が必要な内容については、全体指導の時間を確保するようにした。
 - *単学級なので実行委員兼班長という役割分担で、班の話し合いに実行委員会で決めた内容が伝えやすかった。
- ・行事の調整(取組に弊害が生じないように)
- ・行事等での授業カットを考慮して時間確保を4月の段階で行う。
- ・今年度コース変更のため、学校全体が修学旅行の計画を優先してだったので、時間確保については苦労がなかった。
- ・毎週、月・水曜日にある委員会優先の放課後の時間を活用した。
- ・課外の「学級優先の時間」を学年一斉で使う。
- ・金の6校時(調整コマ)を利用しての集会の実施。
- ・休み時間、総合の時間、学年での優先時間(放課後)を使った。
- ・事後学習は、日程との関係もありますが、大会中の学年内授業が利用できたのでよかった。
- ・学級で使える時間は全て使うことにしたが、工夫といえないかも。

- ・事後指導の時間不足
- ・事後指導は帰校翌日、4時間をまとめ取りした。
- ・決められた時数で行った。
- ・学年として、教科、道徳の時間を振り替えることなく時間を確保することが出来た。
- ・旅行期間が5月の連休明けにあると、事前学習の時間の確保が大変である。

組織と取組みの明確化

- ・教師側の指導部分と生徒が自主的に取り組む部分の明確化
 - *班や係でやることを明確化し、学級や全体で行うことを出来るだけ減らした。
- ・取り組む内容について事前に打ち合わせを行うことで無理なく準備を進めることができた。
- ・実行委員及び全体・班活動の先を見通した細かな計画立案。
- ・役割分担を明確にし、各責任者が学習プリント等を十分に活用したため、短時間で効率的に学習を進められた。
 - *班の中での組織を明確にして、ひとりひとりに役割を持たせる。
- ・通常活動している組織や委員会をそのまま活用する。
- ・集会形式で、全体指導と係別の指導・グループ指導を同時に行った。
 - *コース別や学級別の内容は、パワーポイントでプレゼンテーションを行った。
- ・京都市内班行動と生活班のメンバーを同じにし、話し合い活動における時間を有効に使うことができた。

(2) 意識づけ・意欲化

- ・計画の立案をしっかり行う。総合的な学習の時間を活用した意欲付け。
- ・タイムリーな学習内容と学習計画。
- ・2年生からの指導による、意識付け。
- ・事前学習を深めることで班行動作りの意識が高まった。
- ・活動内容を練り上げ、能率良い活動ができるようにした。
- ・信州の自然についての学習を増やし、生徒の興味を引き出した。
- ・教室に常に資料を置いておき、生徒の意識化を図っていった。
- ・実行委員中心に、自分たちの修学旅行という意識化させ活動させる。そのため、実行委員との話し合いを重視する。
- ・全校報告会を実施。
- ・授業参観時に修学旅行に関する班の発表を行う(学年全体で取り組む)

(3) 資料の収集

パソコン、インターネットの活用

- ・PC(インターネット)の活用
- ・総合学習の時間を割り振って、コンピュータ室の利用が出来るようにした。
- ・事前学習では、各家庭のインターネットを利用させた。
- ・事前・事後学習をPC利用で行いたいのので授業変更し、すべてのクラスでPCを利用できるよう工夫した。
- ・事後の新聞作りを、パソコンを使って行い、実感させた。原稿作りは学級活動で、写真の取り込みやレイアウトなどは技術・家庭科の教師の指導の下、総合の時間でそれぞれ行った。
- ・時間削減のため、業者と連携し、コンピュータを積極的に活用した。

資料の準備

- ・より多くの資料を収集し生徒の課題に応じられるようにした。
 - *計画的に資料を用意して、作業の効率化を図る。
 - *旅行者との情報交換及び情報の入手。
 - *下見にてたくさんの資料を確保し、生徒の計画作りの参考とさせた。
- ・ガイドブックを1人1冊購入したことにより、全員が課題意識を持って取り組めた。
- ・前年度からの下調べ等を実施する中で、昨年度のしおり等を参考にした。
- ・2学年の1月から、ガイドブックの作成を行った。(A5版70ページ)作成段階で調べ学習になった。
 - *ガイドブックを解きながら学習した。
- ・事前学習の内容をしおりに添付して一層の効果を図った。
- ・毎時の活動に具体的ワークシートを用いる

(4) 指導の工夫

教師

- ・事前に教師行動マニュアルを作成し、大まかな行動を教師が理解し指導にあたった。
 - *指導内容を事前に確認し、精選し、時数減に努めている。
 - *生徒が短学活で活動しやすいよう教師側の準備を十分に行う。
 - *決められた時間に仕上がるよう、教師の事前準備を多くした。
 - *学年会で綿密に検討し、旅行会社とも細部にわたって確認するようにした。
- ・学年で共通理解を必要とする内容については、全体指導できるようにした。
- ・生徒指導面と合わせ、生徒指導の充実と教科(特に社会、国語)での生徒の興味、関心に合わせた取り組みをするなど意識的、計画的な取り組みが必要。

- ・学習指導は、時間をかけてじっくり行うものと、短期集中で行うものとに分ける。
- ・レポートの書き方を指導して、必要な情報を集められるようにした。
- ・事前学習において発表会を開くことにしているが、発表資料作りにおいて短時間できれいにできるようまとめ方を工夫している。

旅行会社・関係機関の活用

- ・教師ばかりでなく、担当の旅行会社の方にも班別コースをチェックしてもらうことができ助かった。
- ・旅行会社の活用を図る。
- ・旅行会社のシュミレーションは役立つ。
- ・民泊との連絡方法。

生徒の取組み

- ・実行委員と各係を中心に計画・運営等を進め、生徒たちの活動を重視した。
- ・係りの活動は、一斉に展開するようにした。
- ・係別活動と学習を組み合わせ、能率的に活動を進める。
- ・組織数（係数）を増やし、多くの教員でかかわりをもつ。
- ・生徒の係を1人1役とし、なるべく授業時間内に係活動も位置づけられるようにした。
- ・班で学習（現地の見所・コースづくり）する前に個人で学習をさせておくことで、班での活動がスムーズに出来た。
- ・班行動の日程決めには、班員各々が行ってみたい所のプレゼンを開き、その情報をもとに行程を決めさせる。
- ・2年次に修学旅行の事前練習として班別行動による鎌倉遠足を実施した。
- ・京都、奈良学習のための資料とワークシートを作成し、効率よく行えるようにした。
- ・学年で学習内容を分担し、新聞やポスターなどで知識を共有した。
- ・大きな部屋にクラス関係なく大勢集めて、T Tの形で行ったほうが、目が届くので時間短縮になる。
- ・班単位で発表会、新聞作りを行い、仕事を分担。
- ・事後学習に生かせるよう現地での記録を詳細にさせておく。
- ・総合学習の時間を使い、修学旅行ノート作りを行った。
- ・スクラップノートを活用。印刷物を貼り付けることで、しおり製本の時間を短縮したり、生徒がプリントアウトしたものを添付したり有効活用できた。現地で撮影した写真も貼り付けることができるので思い出作りにもなった。
- ・グループで一つの新聞を作るよりも、個人で一つのレポートを作るほうが、全員が作業できるし、時間もかからないので個人でまとめさせた。
- ・各自にテーマを持たせ、総合学習の時間の中で旅行体験のスキルを身につける取り組みを入れている。

時程

- ・事前の計画を効率的に進め極力教科の授業時間の確保に努めた。
- ・限られた時間内で行える活動のみで努力している。
- ・できるだけ担任が出席できる時間帯に集会を開いた。
- ・2学級をそろえて活動させるときと時間をずらして活動するときを使い分けた。
- ・準備期間が長いと活動が間延びするので、いろいろな時間をやりくりして、短期間での取り組みにする。
- ・パソコン室の利用について、授業を入れ替えて行うこと。

その他

- ・事前学習において、現地調査だけでなく、地域学習との比較等も行う（総合学習）
- ・時間を多くかけすぎないように、下準備をしておく。

（5）総合的な学習の時間

総合的な学習の時間と学活の時間

- ・学活や総合的な学習の時間を年間指導計画に位置づけて有効に活用している。
- ・総合的な学習の時間だけの修学旅行でなく学活やその他の時間を横断的に活用することで、様々な事柄に関連づけた。
- ・2，3学年合同の修学旅行のため、学活と総合的な学習の時間を同一時間に設定してもらった。
- ・班活動や全体で考えるとところは総合的な学習の時間を使い、学級で指導できるところは学活でと区別した。
- ・組織として動く場合を学活の時間、調べ学習等個人で動く場合を総合的な学習の時間として活動した。また、選択授業での補充的学習としても時間を確保した。
- ・学活の時間や総合的な学習の時間を極力、修学旅行の事前学習・事後学習に充てるとともに、道徳の時間に決まりの遵守や公共心を養う指導を行った。
- ・学活、朝・帰りの会や総合的な時間を計画的に活用した。

総合的な学習の時間のテーマと修学旅行の学習内容をリンク

- ・3年生の総合的な学習の時間のテーマを修学旅行に関連づけて集中して取り組めるようにした。
- ・修学旅行の活動を課題探求学習と位置づけし、総合的な学習の時間を活用する。
- ・総合の時間（週3）に修学旅行の研究テーマを設け調べ学習をしているので、時間が不足することはない。
*総合的な学習の時間のテーマを「国際理解」とし、年間指導計画に位置づけて、時数の確保に努めている。
*総合的な学習の時間のテーマを日本文化に設定。各自テーマごと事前の学習に取り組んだ。

- *総合学習で1年間「日本を知る」をテーマに学習。そこに修学旅行を位置づけた。よって1年間の活動であった。
- *総合のテーマが「日本、そして世界へ」なので、日本の文化や伝統を学習しそこに修学旅行を位置づけた。
- *歴史的な文化遺産や地方・風土の研究ということで、総合的な学習の時間と関連づけて、時間の確保した。
- *京都・奈良について調べる学習を2年3学期より続けてきた。総合の時間のほとんどを当てていた。
- *総合的な学習の時間に「地域」というテーマ(課題)を設定し、時数確保を行っている。
- *総合学習の一環として2学年の後半から、文化の違い等について調べ学習を進め、効率よく時間が使えるように計画表等を作成して行った。
- *総合の時間を使ったが、今年は総合のテーマを「自分たちの地域と大都市との比較」にしたので、総合のための調べ学習がそのまま修学旅行の学習になった。
- *総合的な学習のテーマ設定(各班、個人の課題設定)
- ・人と人との心のふれあいや郷土愛などは道徳的な領域に、学級でのプランニングや決まりの決定は学活の領域に、
- *学年全体で取り組む内容は総合的な学習の時間の領域へと振り分けて確保した。
- ・総合学習の一環として行わない。本市や町について住みよい町作りに合わせて行っている。
- ・総合的な学習の時間を使い、連続した時間を確保して、班のコース作りや事前の調べ学習ができるようにした。
- ・総合的な学習の時間を情報教育の時間として活用し、パソコンを利用し、班別行動のルート作りや、見学先の調査。
- 総合的な学習の時間の活用
- ・総合的な学習の時間を年度初めから計画的に旅行事前準備指導時間として組み入れ、時数の確保を行った。
- *前年度2月ぐらいから、事前学習、コース作りの練習に入る。総合の時間を工夫してやり繰りする。
- *週3時間の総合の時間で計画的に取り組めた。訪問体験もクラス枠をとり希望コースで学習を進めることができた。
- *総合的な学習の時間の年間指導計画を立て、学習ブックを作成、細かく実践している。そのため総合優先のコマ組。
- *2年2月から総合的な学習の時間を事前学習に位置づけ班編成などを計画的に行った。
- *「総合の時間」を最大限活用し、合同帰りの会や学年独自の時間を確保しながら、実施した。放課後の活動を含む。
- *総合的な学習の時間を使って行った。パソコンを使って調べ学習をすることができた。
- *新聞作り等で総合の時間を確保した。
- *総合的な学習の時間への位置づけと放課後の時間の確保。
- ・総合の時間に振り替えて、あとで授業に戻す。

(6) 他教科との関連

- ・総合的な学習の時間や教科の時間をそれぞれの目的との調整を図り学習の一環として事前調査を行う。
- *社会科の授業との連携を図り、事前指導を進めた。
- *京都の学習レポート作成、教科に関連づける、歴史学習の発展、等
- ・国語科の授業との関連をはかり、事前・事後指導を進めた。
- *国語科「近代の俳句」の発展としての俳句作り、能鑑賞の事前学習、新聞作りと発表会、等
- ・美術の時間との連携
- ・複数教科、領域との連携
- *総合と社会と国語、総合と国語と美術、総合と社会と国語と美術、総合と社会と英語、総合と国語と英語、総合と国語と英語と体育

(7) 昼休み・放課後・その他の時間

部活動の時間の確保

- ・各部活動の大会練習時間確保のため、実行委員会は放課後を避け、早朝に実施した。
- ・部活に参加できる時間を確保するため、事前指導の計画を明確にし、会議等はなるべく昼休みに行った。
- ・3年生にとっては、部活動の時間も大切にしたい時期であり、できるだけ放課後の活動を行わずにすむようにした。(学活、総合の使い方。同時に進められるものの組み合わせ)
- ・実行委員会は部活動など他の活動に支障がないように昼休みを利用し、短時間で効率的に行うようにした。
- ・部活動のない曜日の利用。
- ・実行委員会の活動時間については昼休みや長期休業中を中心に確保して部活動に影響が出ないように配慮した。

早朝の実行委員会

朝の会・帰りの会

- ・朝の会・帰りの会を延長して、学級活動を実施。
- ・事前学習。
- ・学年集会の時間が取れない時は、合同の帰りの会を実施。

朝読書・朝学習

- ・朝学習の時間を利用して、事前学習を行い、時間を確保する。
- ・朝読書の時間帯に事前学習を実施。(通算30時間)
- ・作業は朝学習、昼休みを使い行った。

昼休み・休み時間

- ・実行委員会等を昼休みに行った。 ・学年評議会。
- ・係会議、係活動、班別学習、まとめ作業。
- ・子どもたちの休み時間を使うこともあった。

放課後

- ・係会議、班別学習などは、放課後に行う等で、時間の確保を図った。
- ・実行委員会
- ・学習を進める上での個人差を考慮し、放課後個別指導を行った。

自習時間に事前学習をした。

長期休業中や休日にも実行委員会を行った。

時間がなく春休みや通常にも家庭で宿題として、事前調べ学習のまとめや、新聞作りなどを行わせた。

その他

- ・3年生の部活が引退していたため、昼休みや放課後の時間帯を活用した。
- ・保護者会の時間と並行して、教員2～3名で全クラスに対応して、班別コース作成の時間を確保した。
- ・壁新聞は記事の分担を決め、各自でまとめるようにした。
- ・時数を減らすために、事後の新聞作りを個人新聞にした。
- ・家庭訪問期間の午後、副担任監督の事前学習。
- ・家庭訪問期間中に実行委員会を開き、決められたことを、学級へ新聞を作って掲示させた。

(8) その他(時数の確保でないもの)

- ・体験学習を今後の生き方にいかすかを計画すること。
- ・タクシー会社の検索システムが有効であった。
- ・教育課程の円滑な実施。
- ・事後学習はパワーポイント利用による班別発表。
- ・学期をまたいだ場合資料紛失に注意が必要。
- ・旅行終了後から1か月の間に反省会やまとめの作業をおこない文化祭展示に備える。

課題

(1) 時間の確保

他行事との調整

- ・その他の学校行事・部活動の大会等の関係で、事前学習や実行委員会の集まりの時間が確保しづらかった。
- *修学旅行だけに総合の時間を使わず、時間的にきびしく、できる範囲内の事後学習となってしまう。
- *他の行事、授業時数の確保との関連で時数確保が難しかった。
- *2月に行うので、下校時間も早く期末テスト、3年生を送る会、卒業式との兼合いが難しい。
- *他の行事と並行して準備するのでかなり早くからスタートすべきであった。
- *年度始めの行事等により、総合学習の時間が削減されないよう、教務主任との連携を図る。
- *学校行事等で授業カットや変更があるので時数確保が難しい。
- *修学旅行の取組みを優先するため、他のテーマが先送りになることが課題である。
- *重なる校内行事
 - 学級開き、学級組織作り、他の学級活動、学年活動、家庭訪問、生徒総会、新入生歓迎会、送る会、卒業式、他学年の旅行的行事、定期テスト、進路指導、避難訓練、体育祭、総合体育大会、連休、長期休暇を挟む、

実施時期との関係

- ・3年生の春に行くのには、どうしても時数確保が難しい。
- *事後のまとめの時間があまり取れない。1学期に実施するのは忙しく時間を生み出すのが容易ではない。冬(2月)に戻したほうがベター。
- *5月の修学旅行は、新年度が始まってから行事等もあり、あまり時間がとれない。前年度に見通しを持って、教育課程を進めていくことは至難の業である。
- *準備が前年度から継続されるので、学級や班活動の進行状況の把握と引継ぎの点に課題が残る。
- *学級編制が実施されると、班・学級での取り組みに時間がかかる。(早い時期の修学旅行)
- *ゴールデンウィーク前後、準備の時間が取りづらいことがあるため、時数確保が難しい。
- *6月下旬だったので、新年度のスタートであったが、時期のよっては2学年から指導を進めていく必要がある。
- *2年生の頃から準備を始めておけば、さらに余裕をもって計画を進められたと思う。
- *学年が進級した際の前学年からの学習内容の引継ぎをしっかりと行う。
- ・1学期後半の修学旅行
 - *落ち着きにかける。 *間延びする。 *事後学習が実施しにくい。
- ・時期によっては修学旅行以外の学習活動の必要もあり、時間確保が難しい。
- ・時期的な問題(1月実施)から事後指導学習に時間がかけれない。
- ・期日が限定されているので、十分な時間がとれないことが多い。
- ・時期が一定でないため使える時間が一定とは限らない。
- ・学校の日程と旅行の日程があわなかった。
- ・長期的な(1学年からの)活動計画の立案と展開の工夫。

時数の確保

- ・時間の確保はとても厳しく、事前の学習の確保は不十分だった。
- *時間をまとめてとることが難しい。
- *学級活動以外に総合的な学習の時間を使わざるを得ない。

- *事前学習の時間数の確保。
- *修学旅行の直前に、ある程度まとまった時間が確保できるとよい。
- *修学旅行のテーマとも関わる事前の学習をどこまで詰めるかで随分、時間が変わってくる。総合、教科での学習とあわせていくことは至難の業である。
- *他学年との調整、担任負担増。
- *一部分(リーダー)の生徒の活動時間の確保が難しかった。
- *実施1ヶ月前から、学活や総合の時間が、事前・事後の時間となってしまう。
- *学年スタッフが大幅に変わったので、一からスタートということで、日程的に事前指導が厳しいものがあった。
- ・授業、道徳との関係
 - *予定時間内で全てを消化できず、やむを得ず教科等の時間を振り替えてしまうことがあった。
 - *学活の時間を用いることが多く、どうしても教科の時間を学活に使用してしまいがちである。
 - *授業の振り替えをしたが、旅行後もなかなか落ち着かない。
 - *できるだけ道徳の時間を使わないようにする。
 - *担任によって、学級で道徳を事前、事後の指導に当てるなど、余裕をもった時間の確保が出来なかった。
 - *授業時数確保により、授業は使えないため、早めに取り組む必要有り。
 - *もう少し歴史・文化の事前学習の時間を確保したい。
- ・連合で実施の際事前事後の集合学習の実施。
- ・放課後の時間も含め、時間の確保と生徒指導のからみが難しかった。
- ・大規模校のため物理的・時間的に困難。
- ・3ヶ月以上の長期計画をもとに、修正しながら実践してきたので、時数確保の上で、大きな課題はなかった。
- ・どの内容をどの扱いで・・・というのを来年度に残したい。
- ・総合的な時間の活用はまずいのでは。
- ・学年300人規模のため、調べ学習の機会が設定しづらい。
- ・学習内容の調査には家庭でのインターネット利用を活用し、校内での時間節約を図った。

生徒の活動と時数

- ・生徒の活動を増やしたいのだが、十分な時間の確保ができない。
 - *生徒1人1人の学習定着のための時数の確保。
 - *個人テーマに基づく事前学習の時間の確保
 - *事前学習を深めれば深めるほど時間が必要になるので、その辺を見極め、どう計画的に進めるかが課題である。
 - *より主体的な活動への取組みと充実した実践化の工夫。
 - *生徒が下調べにかかる時間をもっと増やしていきたい。1年時からの積み上げが重要であることを再認識した。
 - *時間に限りがあるので、生徒主導でどこまで、まかせるかが難しかった。
 - *班別行動を行うときの行程、交通手段と時刻の関係、各見学場所の基礎知識を調べるのに時間がかかった。
 - *学習内容の調べ学習にパソコンを使って調べさせたが時間が足りないという問題が課題となった。
 - *体験と結びつけた事前学習を計画的に行う必要がある。
 - *計画的に取り組んだが時間数が不足し放課後等を活用した。
- ・生徒主体の活動となるよう、実行委員会及び各系の活動を、更に充実していきたい。
 - *班長を中心に系の活動を積極的に進めさせることが課題。
 - *時数確保から短時間で班の計画を立てる必要がある。そのために、班長が中心となって計画を立てることになり、班員の考えが反映されない面がある。
 - *事前の調べ学習で、コース作りの時間の確保が難しい。
 - *班別行動の計画を十分時間を取り、指導が入られる時間の確保が課題である。
 - *生徒の自主活動を育てるためにグループ活動や個人研究の時間が必要だが、授業との関係で十分確保できない。
 - *生活経験が班別行動を良いものにさせる。普段の学校生活において指導すべきだった。
 - *バス停や路線系統など細かい交通手段の計画がスムーズに出来なかった。
 - *班別コースの計画と実際の行程に大きなズレが生じる。
 - *班別コース決定までの各班の現地理解の充実。
 - *体験を取り入れたかった。
 - *途中のチェックを細かくする。
 - *テーマが多様であったため、班編制が難しかった。
 - *班別学習に体験学習を取り入れる時、日程となかなか合わない。
 - *班別学習を2,3学年合同で編成したので、コースの決定に時間がかかった。上級生に頼る傾向が見られた。
 - *グループ編成を新学期になってから行うと決定までに時間がかかる。
 - *生徒に班別行動計画を作らせるなど、主体的な活動にしていくには、時数がかかる。
 - *ひとりひとりが見学場、コース等事前学習をしっかりと行うこと(他人任せでなく)
- ・事後学習では、まとめとしてプレゼンテーションをやらせてみてもよかった。
- ・他の時間や活動と重複している生徒の援助。
- ・タクシー研修でなく、バス、電車等の利用での研修が良かったが、このためには時間の確保が重要となってくる。

実行委員会の時間

- ・一部の生徒（実行委員等）を活動させる放課後の時間のやりくりが、他の学校行事との関係で難しい。
 - *学校行事、運動部の大会、定期テスト、他の委員会、部活動、
- ・実行委員会での論議が十分に確保できず、教師主導の運営となってしまった。十分な時間的な余裕があれば3日間の活動内容も含めて生徒主体の取組みが望ましい。
- ・実行委員会の活動を放課後に行うことが多く、一部の生徒の負担が増えた。

進度差

- ・学級間の進度さ
 - *計画的な進行と7クラスの共同歩調。
 - *学級での進度状況に大きな差ができた。
 - *生徒の行動計画に、教員が効果的にアドバイスをしたクラスとそうでないクラスのばらつきがあった。
- ・班別活動準備の進度さ
 - *班により、活動の速度が違い、その調整を放課後に行わなければならなかったこと。
 - *調査計画がてきぱきと進む班とそうでない班との差が大きく、指導に苦慮した。
 - *1日乗車券による班別行動の計画を立てる時、個人差が大きく、助言することが多かった。
- ・個人の進度さ
 - *生徒個々のまとめを進める進度差の調整
 - *学習内容（意欲）に個人差が大きく表われた。
 - *個人の作業が多く差が大きく、助言等を多くの職員で行う必要性あり。
 - *新聞作りのベースが生徒によって異なるので、宿題にしまうこと。
 - *ノート作りは早い子と遅い子の差が激しく、時数を確保しても足りない生徒もいれば、余る生徒もいる。
 - *どうしても個人差が出てしまい、部活動とのからみで、放課後等、時間の確保が難しい。

時間の有効利用

- ・計画的、意図的な時間の活用の仕方。
- ・学年として、一斉に取り組むことの出来る時間をどのように確保するか。（一斉学活の設定）
- ・時間の有効活用。（班活動を重視しているため、学年全体で同一歩調をとるのが難しい）
- ・限られた時間でいかに内容を充実させるか。
- ・集中的に取り組める時間の確保が必要である。
- ・修学旅行の取り組みで時間がたりなくなり、他の教科に及んだ。

その他の問題点

- ・新年度になり間もない実施日のため、全ての会議を効率よく進めること。
- ・新学期の忙しい時期で、クラス替えもあり、スムーズな話し合いができず時間がかかった。
- ・週28時間の授業外での生徒の指導時間（放課後）が少なく（取れない状況）実質的には生徒活動を中心とした時間が取れず教師主導に進みがちになる。
- ・時間をオーバーすると他の諸活動に影響がある。
- ・学習内容やコースについては業者にモデルコースを作成してもらわざるをえない。
- ・工夫をしたが、時間にルーズな面が出たり、連絡が遅れたりという課題も出た。今後の学校生活に生かしたい。
- ・旅行会社とのさらなる連携。（計画と情報収集的的確な同時進行）
- ・かけた時間、金額分の効果が出ているか、疑問が残る。
- ・事前、事後の指導のための資料の整理や、実行委員会を動かすために職員が多くの時間を費やすことになるが、そのほとんどが勤務時間内では不可能である。この実態をうまく改善している事例があれば参考にしたい。
- ・JRの座席を早くもらいたい。

事後指導、反省、まとめの時間

- ・事後指導
 - *時間の確保が難しい 理由；学期末(年度末)のため、運動会等
 - *事後指導が休日などの関係で、帰校後すぐにとれない。
 - *事後学習が遅れると反省もうやむやになるので早めはどう時数を確保するか
 - *事後学習では、班で取組む時間を多くしたが、修学旅行全体の様子を全体で振り返る集会が持てればよかった。
 - *部活の総体がすぐにあるので、事後指導にあまり時間がかけられなかった。
 - *事後は、進路指導が始まるため、時間確保が難しくなっている。
 - *6月半ばの修学旅行だったので、テスト、総合体育大会等の行事で、事後学習の時間が十分取れなかった。
 - *事後学習で反省の作文 係反省会 全体反省の流れで3時間の時間確保
- ・反省、まとめの時間
 - *感動が薄れる頃に発表会を持つしかない日程の問題がある。
 - *反省まとめの時間の確保が十分でない。
 - *まとめとして新聞作りをパソコンで行っているが、PC室の利用が重なり、調整のための日課変更にも苦労する。
 - *3年1学期いっぱいかけて、まとめ学習を行う。
 - *班別学習のまとめ発表会を事後学習として行ったが、総合的な時間の学習では足りず学活を使い準備等を行った。

- *修学旅行直後の係の反省をさせる集会を行ったが、時間確保が難しく、集会前15分ほどを充てて補った。
- *校内発表会(1,2年は校外学習について)までの時間確保が十分でなかった。
- *事後学習の内容(発表会、新聞作り)を精選すること。
- *発表会の練習の時間がなかなか取れない。
- *他学年、保護者に対しての報告会の実施。

(2) 昼休み・放課後・その他の時間

- ・昼休みも使用しないと時間は確保できない。
- ・放課後
 - *部活動等で放課後使える時間が少ないので、生徒主体の活動が不十分になってしまうこと。
 - *修学旅行終了後すぐ総合体育大会があり、部活動との両立が難しく、事後学習の時間が確保できない。
 - *急に放課後の時間が使えなくなったり、行事等で日程の変更があって、予定通り進まなかった。
 - *10月過ぎからの準備のため(1月31日実施)、放課後遅くまで取り組めない。(下校時刻の関係)
 - *実行委員会開催など放課後の時間の確保が難。
 - *より細かい指導をしようとする放課後まで使わなければならない点。
 - *実行委員会を放課後に実施するしかなく、委員・指導者が部活動の時間を割かれてしまっている。
 - *実行委員会は放課後に設定したが、行事等で持てないことが多かった。
 - *実行委員会の集まりを昼休み、放課後にもつことが多かったので、工夫が必要である。
 - *班別に見学場所を決め調査するので、各班の学習進度を調節するために放課後を活用せざるを得ない。
- ・実行委員がしおりをつくる時間が確保できないので、いつも個人にまかせて期日までに作るかたちで行った。

(3) 直接時数確保と関係しない課題

計画作り

- ・年間の行事計画をよく吟味して計画すべき。
- ・活動内容等の計画、立案、取りまとめのための時間調整が大変であった。
- ・年間指導計画作成時に、時間を確保する際、極力少ない時間で効果的な時間となるように検討すること。
- ・計画通りにはなかなかいかない。・計画で予想できなかった学習のふくらみ。
- ・直前になって時間的に急ぐ状況があったので、より早め早めの計画が必要であると感じた。
- ・冬季のため、実行委員会を放課後長い時間持つことが難しいので、早めに計画を立て、機能させることが望ましい。
- ・修学旅行の実施日程が、列車の関係で自主的に決定できないため、3年生の新学期になってからの活動が、日程によっては時間的に厳しくなってしまうこともある。
- ・新学期草々なので、体験と見学のバランスを十分考えていく必要がある。
- ・学級活動と総合的な学習の時間のそれぞれの内容の明確な設定。
- ・総合の時間は有効に使えたが、クラス担任が総合の時間に他学年の授業があるなど、行う内容はだいぶ限られた。
- ・放課後の時間の確保も難しい状況で、効率的な準備と総合的な学習の時間への適切な位置づけ。
- ・1学期は修学旅行が終わるまで学活と総合の内容が限られてしまう。
- ・必要な学級指導活動が後回しとなってしまった。
- ・多くの時間を要した。学習のあり方を含め検討すべき課題は多い。
- ・締め切り間に合わせるため、授業の入れ替えを行うことがあった。
- ・メリハリをつけた時間設定をしないと、生徒の集中力、モチベーションが続かない。
- ・職員の出張等で予め計画が消化されないことがあった。分掌は最低2人が必要か。
- ・授業時間の確保が困難な中、どのような修学旅行の取り組みを行っていくか。
- ・体験学習の取り入れ方。
- ・京都班別研修の計画(調査)の充実。
- ・京都市内班別行動における時間的な計画について、パソコンやガイドブックだけでは計画を立てるのに難しかった。
- ・修学旅行の時期にイベント(例:万博等、花博等)が実施される時には、それを入れるような計画であってもよい。
- ・活動計画書(ルートマップ)作りに時間がかかり、観光地や名所の事前学習に時間をかけることができなかった。
- ・2年生の後半で事前学習を済ませておくと3年生でのルートマップ作りに有効と思われる。
- ・広島まで訪問させたい。(日程の工夫)

ねらいの達成

- ・限られた時間の中でどのように深化させるかが課題である。
- ・3日間の修学旅行のデザインの工夫をどうするか。生徒の手による修学旅行の実施。
- ・修学旅行も含め学校行事の意義や趣旨ねらいを明確にしていく必要を感じます。
- ・目的を達成できるように、全員参加の有意義な活動にする。
- ・目的意識を高める指導、生徒を生かす手立て。
- ・特色ある取組みと生徒の主体性の生かし方の工夫。
- ・学級、学年と大きな集団での活動の充実。
- ・見学地についての予備知識収集とモチベーションの高め方。
- ・京都や奈良の寺社についてもっと深く調べをしておくことで、更に充実した寺社見学になったと思う。
- ・生徒たちの訪問地に対する興味・関心の高め方の工夫。

- ・国際理解に欠かせぬ、日本の歴史や文化を学ぶため、修学旅行においても班ごとにテーマを決めさせ、そのテーマに迫り、追求していく班行動の計画を立てさせ実行させたい。
- ・日本の文化を学ぶ学習を他の領域にどのように広げていくかが課題である。
- ・修学旅行に対する目的や意識を高めるのが、クラスが変わってすぐなので、難しかった。
- ・生徒の事前学習の意欲をいかに高めさせるかが、課題。
- ・十分、総合的な学習の時間を使って事前学習を行えたのが、それに見合うだけの成果の報告(発信)の方法が不十分である。時数というよりも修学旅行のまとめ自体に課題があると感じている。
- ・学習という意識を持たせることが重要だが、徹底するのが難しい。
- ・京都・奈良の全体像に迫る学習には至らない。
- ・表現力を向上させるためにも事後のまとめや発表の形式、仕方を工夫したい。
- ・細かく指導内容をチェックすればするほど逆に生徒の主体性を損なうことになる。
- ・実施時期が遅く、生徒の活動意欲を継続させることが難しかった。
- ・半年前からテーマに沿って取り組んだ。長期にわたって行うことで、生徒たちの興味関心が希薄になってしまう。
- ・内容の形骸化。
- ・事前・事後学習の内容の深め方。
- ・パソコンの利用が多かったが、説明など自分たちのわかりやすい言葉に置き換えて発表できるようにしたい。

取組み開始

- ・前年度にも、かなりの事前準備をするための時間を確保すること。
- ・2年次終盤(3学期)から見通しをもった調べ学習を行っていく必要がある。コース作成に追われ、見学地についての調べ学習を十分に行うことができなかった。
- ・修学旅行の実施時期と学期当初の指導の兼ね合い。
- ・4月9日始業、5月15日出発という日程のなかで実施するには、全体計画を3年職員が良く承知し、計画的にそれぞれの準備を進めること。
- ・まだ遠い時期からスタートするので意欲を維持するのがむずかしい。
- ・今年度は学級編成があったため、実質的活動は3年次から開始したが、できれば2年次後半から取り組みたい。

指導組織について

- ・年度をまたぐため、人事異動等で前年度から準備を始めると、支障をきたす可能性を否めない。
- ・担任による指導が中心となるため、総合的な学習の時間に担任が入っていない場合や、出張などで不在の場合、同一歩調で進められなかった。
- ・学年外の教科担当との連携が不足しがちであった。
(事後指導における感想文や新聞づくりは国語や美術の時間も充てることができる)
- ・学年の教師が他学年にも授業を持っているため、学年・学級につけないことがあった。
- ・職員の分担。・先生方の負担が増えるばかりであった。・他教員との打ち合わせ時間の確保。・連絡事項の徹底。
- ・職員の手が足りないので、係ごとに活動する場面で生徒につけない。
- ・小規模校では担当・指導教員不足。・時間も人間ももっと必要。
- ・細かい点まで生徒に考えさせているが、限られた枠を示して効率的な指導をする必要がある。
- ・課題設定の段階、追求の仕方に対する指導、支援。
- ・実施までの期間が短かったため、細かい所の確認や指導が不十分なところがあった。
- ・担任を中心として各クラスで指導していくこと。・担任が出張などで時数との調整が難しいことがある。

生徒の組織作り

- ・実行委員会を中心とした主体的な活動。
- ・実行委員会組織のあり方を工夫し、係会議の時間をとらないようにした。
- ・実行委員会のメンバーにかかる負担が大きい。
- ・生徒の主体性をもっと発揮させていく。
- ・2・3年で学級編成が変わる場合の班作りは、学級という集団を越えての編成になるため、人間関係を越えての編成になるため人間関係が難しい。
- ・班編成がクラス単位ではないため学級ごとの指導ではなく、学年全体での活動の時間を確保する必要がある。
- ・班編成時必ずしも同じテーマの生徒が集まるわけではない。
- ・班行動計画をいかに6～7人にわりふるか。
- ・学年250名を超える生徒数のため、全員が目的を持って活動させる指導が必要であると同時に組織作りが大変。
- ・修学旅行の取り組みだけでなく、様々な活動を並行してやらなければならないため、こちらが意図した活動が十二分に組織できなかった。

施設の活用

- ・活用時間の工夫が必要。
 - *学年全体が同一時間にとったので、資料作成、収集等コンピュータ室の利用が困難となった。
 - *大規模校のため、パソコン室の利用が物理的に困難であったことが今後の課題である。
 - *パソコンの台数に限りがあるため、放課後に事前学習を実施。
 - *発表時のパソコン利用が十分できない。

- *インターネットももっと活用できれば良かった。
- *パソコンを使った資料作りは、教師主導で進みがちになる。
- ・全体集会を行うときに、体育との関係で体育館を確保できない。時間割編成に工夫が必要だ。
- ・大規模校のため物理的・時間的に困難。
- ・場所、資料の関係から全員を同時に活動させることが難しい。
- ・8クラスの生徒が同じ時間帯に調べ学習できる施設・設備がないので、家庭学習が中心になってしまう。
- ・全体指導を行う際の場所の確保が難しかった。(他学年も、同一時間に総合的な学習の時間が組まれているため)

資料の収集

- ・適切な資料の確保が難しい
 - *課題解決学習をするための資料が十分になく、課題によっては苦労した。
 - *調べ学習のための教材を数多く取り揃えておきたい。
 - *見学場所決定、班別行動計画作成のための資料収集を充実させたい。
 - *情報収集方法がガイドブックに頼りすぎていたので、別の方法も模索するべきだった。
 - *予察の役割、内容を整理しておく(必要な資料の見通しをもち、効果、効率的時間活用と内容充実を図る)
 - *前年度の学年が使用した資料の引継ぎ。
 - *インターネットの情報と実際のズレ。
- ・情報収集能力の育成
 - *班活動コース作りの資料集めの時間確保。 ・資料の活用と示唆、助言の工夫。 ・現地への電話取材。
- ・体験学習の内容や料金などが様々で、早めに準備しておくが良い。

資料作り

- ・分かりやすい資料作りの工夫。
- ・新聞のレイアウトの仕方やどのような学習に取り組みばよいか。
- ・より学習を深めるための学習計画。
- ・できれば、毎時でなくとも全クラス同じ時間帯に調べ学習を行いたい。

総合学習のねらい

- ・修学旅行に総合的な学習の時間を活用
 - *学活の時間で取り組む目的と、総合の時間で取り組むねらいをはっきりさせる。
 - *総合学習のねらいに、いかに迫るか。
 - *総合学習の目標を含め指導計画を立てる。
 - *総合の時間の有効活用。
 - *放課後に係会や実行委員会、コースを考えるとすることが多く、生徒への負担が大きくなるので、総合的な学習の時間をうまく運営できるとよいのではないが。
 - *総合の時間(国際理解)との関係。
- ・消極的に活用
 - *修学旅行は本来特別活動であるので、総合の時間を関連させるとき、関連の内容や方法を明確にする。
 - *総合学習として行事を全て入れることは不可であるので、総合学習と行事との関連付けの工夫が必要。
 - *総合の中で修学旅行関連の時数をどう位置づけていくかの判断が難しい。
 - *修学旅行のねらいを十分達成するためには、事前・事後の指導、活動時間が重要であるが、「総合的な学習の時間」を運用せざるをえないのが現状である。
 - *総合的な学習の時間を使わなければ準備が間に合わない。
 - *総合的な学習の時間が週3時間確保されているが、平行して他の課題が入ったりするので、継続して1つのテーマに取り組むことができない。
 - *総合的な学習の時間には他の内容もあり、また教科の時間の確保などとのかねあいもあり、ぎりぎりのところで行っているのが現状である。
 - *総合の学年テーマ「文化」で個人研究へ移るのが6月に入ってしまう11月の発表までの時間が少なくなってしまう学活総合的な学習の時間が随分とられてしまう。
 - *今年は総合を週1時間で活動しているので準備の時間が短かった。
 - *総合的な学習の時間を充てているが、修学旅行実施時期が5月末であるため、時間が十分取れなかった。
- ・総合の時間の再検討
 - *総合的な時間を使うか学活を使うかがどう区別すればよいかの判断が不明確
 - *総合の時間が活用できない。
 - *総合の時間は本来の趣旨と違うので学校としての課題がある。
 - *総合の学習がその間、テーマからはずれる。
 - *総合的な学習の時間を使うことなく、準備・指導を行いたい。
 - *「総合的な学習」で本来学ぶべき部分があるはずですが、そこが削除されてしまうことになる。
- ・総合的な学習の時間の全校的な取扱い(3年は時間必要だが...)
- ・総合的な学習の時間は、全学年共通の時間帯のため、行事が遠い学年には活動計画が立たない。

教科との関係

- ・教科の学習と関連づけて、事前の調べ学習等の時間を確保できたらよいと思う。
 - *全教科で学習に取り組む計画づくり。
 - *各教科の中で関連する内容をリストアップして、触れると良い。
 - *取組み内容を精選し、各教科（社会科、美術科、国語科等）の学習に関連させ、年間指導計の中に組み入れる。
 - *京都・奈良が訪問先のため、社会の歴史の授業ともリンクできればより効果的であろう。
 - *歴史の学習との関連を深め、強くできないか。
 - *国語、社会、理科、美術等の授業内容を工夫し、学習を深めるようにしたい。
 - *事後のまとめの時間を生み出すことが難しいため、技術科の授業と連携してウェブページ作成作業に組み込んだ。
- ・実施日が比較的早かったため学活、総合的な学習の時間だけでは足りず、教科の時間利用を行わざるを得なかった。
- ・授業時数の確保。
 - *授業に対しての集中力が、とぎれないような取り組み。
 - *授業振り替え等、他学年の協力が必要である。
 - *各教科年間計画通りに授業を進めることが困難。

班別行動計画

- ・奈良・京都の班行動計画づくりを、いかに効率よく進めていくか。
- ・班行動の限界とシルバークライドの活用方法。
- ・S K Yガイド協会、班別タクシー見学等の予約が早く埋まってしまい、生徒のみの見学となってしまう。
- ・体験学習内容の検討と充実。
- ・体験学習を実施する場合には、申し込み、調査等で時間を要するので、早めに対応していくことが大切である。

その他（時数の確保でないもの）

- ・修学旅行のあり方の再検討。
- ・やればやるだけ効果があるのですが、修学旅行の学習ばかりやっているわけにもいきません。
- ・修学旅行で学んだことを深める工夫。
- ・限られた時間の中で、係り活動や、事前学習をどの程度まで行わせるのか、その教育的効果を考えて計画作りを見直す必要があると感じた。
- ・事前学習で、さらに意識を高めるための工夫が必要。
- ・事前の体験活動。
- ・今回、新しい試みとして「神戸震災学習」を入れたので取組みに苦労した。
- ・直前になって出てくる課題への対応。
- ・多人数のため、効率を如何によくするか。
- ・関ブロ大会での発表に向け、いかにまとめるかが今後の課題と考えている。
- ・添乗員との細かい打合せが不十分。
- ・事前の下見ができないので行ってからの対応する場面がある。
- ・学年内の職員だけでは対応できないときがあった。
- ・臨時列車の使用によって、値段は安いけど時間の制約があり、弾力的ではなかった。
- ・マナー向上等も時間をかけて行う必要がある。
- ・継走列車での一般客とのトラブル等、指導上の課題が残った。
- ・朝が早すぎる。始発でも間に合わない職員がいた。
- ・出発時間が早いので朝食を新幹線内で取っている。
- ・看護師の費用が1人当たり800円強かかっている。
- ・旅行費用の軽減。
- ・費用が一般の旅行よりも高い。
- ・予察等、事前に経費がかかる。
- ・実施時期を梅雨にかからないようにする。
- ・同じ日に2時間の授業になったりするためやりにくい。

() 東海三県中学校修学旅行委員会（関東と重複している項目については一部削除しています。）

工夫

- ・総合的な時間と放課後の活動を中心としてきた
- ・学年・学活（集会を活用）
- ・連続して時間を確保するよう配慮した
- ・進路学習として時間を確保
- ・総合的な学習の時間の上質な活用
- ・平和学習・課題解決学習を総合的な学習の時間・教科指導とタイアップ
- ・P C教室の利用計画を練る
- ・昼休みの有効活用
- ・「オペラシティーでの合唱」に参加するため一年次から合唱に対する意識を高めてきた

課題

- ・時間が少ない中、取り組む内容の精選が大切である
- ・時間割の変更
- ・前年からの取り組みの強化
- ・平和学習の一層の強化
- ・目的意識を高める工夫
- ・職場体験先の決定に困った
- ・訪問先の時間帯が合わない
- ・家庭訪問時の午後の活用法
- ・学級組織づくりとの時期の重複
- ・時数にカウントできない時間が多くなる
- ・総合的な学習の時間をすべて修学旅行の指導に振り向けることが出来ない

() 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

工夫

(1) 事前・事後学習の時間数確保に関する工夫

- ・コマ数を別途設けて確保した。(テスト後3年のみ。コマのない月6限を総合扱いで実施。)
- ・学活・総合の時間、道徳の時間を各領域の目的・目標に考慮しながらまとめて学習の時間に充てた。
- ・総合的な学習の時間と学活の時間を2年次にも活用することで時数確保した
- ・月・水は5限であるが、6限を総合的な学習の時間として確保(修学旅行実施日まで)
- ・肥大化した行事を見直し、1割縮小などシフトチェンジに取り組んでいる。
- ・総合的な学習の時間の内容と連携した取り組みにして効率化を図った。
- ・現状では総合・特活を使う。プロジェクトチームは放課後を使う。
- ・時間的な不足は放課後の時間で補いました。
- ・総合的な学習の時間や学活で十分時間を確保できた。
- ・特別活動及び総合的な学習の時間の指導計画の策定
- ・春休み等を利用。平和学習を重点に行った。
- ・2年12月より取り組み開始。3年での時間確保が困難。準備可能な範囲で2年生で済ませるとよい。
- ・平和学習については教科や道徳とも連携を図った。
- ・昼休みや放課後を利用した合同班長会議や委員会の開催
- ・直前に多くの時間が必要となるので、学活などの時間を振り替える等の工夫をした。
- ・2年後半に大まかな予定を立て、時数確保ができるよう全体の行事予定に組み込む
- ・早朝・休日・放課後を活用して事前準備を行った。(授業時間内では十分な確保ができないため)
- ・できるだけ授業のカットをやめて事前指導に力を入れた。
- ・総合学習のカリキュラムの中に組み込んでいる。
- ・早めに事後指導までの計画を立て、終学活の時間なども有効活用出来るようにする。
- ・総合、道徳、学活を利用してじっくり取り組んだ。
- ・総合学習の時間を年間計画のもとに有効に使用。
- ・新学期に入って日数がないので、2年3学期および春休み中に取り組む。
- ・月・週別計画を立てて取り組んだ。生徒に任せる事項と教師主導を明確にし、無駄を省いた。
- ・事前学習は休日に登校日を設定した。
- ・放課後の活用。(班長会、各係りのリーダー会)
- ・教科の時間は確保しながら事前・事後学習をした。

(2) 事前学習の内容

- ・事前学習の材料は現地との手紙のやり取り。
- ・事前学は農家との手紙交換。学活・総合・道徳を計画的に活用した。
- ・戦争体験者を語り部として招いて体育館で話を聞く。
- ・生徒代表によるプロジェクトチームを結成。チーム代表から全体指導した。生徒による生徒の為の修学旅行を目指した。
- ・総合学習(キャリア教育の一環としてファーム体験をしている)で事前の取り組みをしている。
- ・実行委員会を中心にルールやマナー等を事前に検討した。
- ・平和・歴史等事前学習に多くの時間が必要なので2年より取り組んだ。
- ・テレビ会議システムで「現地の方の説明を直接受ける」を実施した。
- ・総合の時間をタイムリーに使えるよう工夫した。三線・料理・エイサー等沖縄の文化を事前に体験させた。
- ・2年文化祭で「私たちの沖縄物語」に取り組んだ。更に「教科で進める沖縄総合学習」に取り組んだ。
- ・家庭訪問期間中の午後実行委員会やしおり作成の時間をとる。
- ・事前学習で平和学習を一年間続けてきたことが効果的であった。
- ・2年生の段階から取り組む。事前に次の活動内を指示し、学習が円滑になるよう配慮。

(3) 事後学習の内容

- ・テーマ(奄美の自然・文化・歴史・食べ物等)別に調べた内容を新聞にまとめ発表会をした。
- ・新聞作りの指導を国語科の授業で補足してもらった。
- ・事後学習－全体集会で評議委員から発表。学年通信に感想文掲載
- ・事後学習は文化祭で結果を展示
- ・秋の文化祭で発表するため、2学期に総合的な学習の時間をまとめ取り
- ・事後学習ではお世話になった農家への礼状
- ・小中連携で小学校への報告会
- ・現地で取材、収集した情報や写真を元にガイドブックを作成し、後輩に送る。
- ・夏季休業中の「平和登校日」に発表会を実施

(4) その他

- ・可能な限り生徒の自主性を尊重する。
- ・放課後の活動をしないよう工夫した。授業時数の中で計画的に取り組んだ。
- ・全員実行委員制
- ・沖縄についての調べ学習は、総合の中の「情報リテラシー」のテーマにして活動を重ねている。
- ・本校の教育課程に位置づけられた学活、総合の時間を必ず確保し修学旅行を通して何を学習するか生徒に目的意識をしっかりと持たせて、時間を有効に活用している。
- ・学活、総合をタイムリーに運用することで間延びせず、生徒の意欲、関心が高まる。
- ・2年2学期から沖縄学習を10時間ほどVTRやセレモニー練習など平和学習や文化、風俗、歴史の学習を総合学習として取り組んでいる。
- ・5月の連休中に教師が下準備をしておいた。
- ・1年時より修学旅行を見通した生活指導、集団行動など指導を徹底した。
- ・総合学習の中で、修学旅行を最終発表とした3年間の計画が大切だと思う。
- ・2年生の後半から東京、鎌倉のことや班別自主行動のコースの調査に取り組んだ。2年生に神戸で班別自主行動を体験させた。
- ・カリキュラムがあるので手順は困らないが、旅行の日程により早すぎて準備が足りない時は道徳などを振替、日程が遅いときはゆっくりできるが、今年のように学年発表会はカットしたり、新聞の制作は家庭学習で行うなど柔軟に対応している。
- ・総合学習の「未来創造(中タイムズ)」に位置づけ統計的な指導を行った。
- ・実行委員会を放課後に行い、細かい点まで検討した結果を各学級に伝えたことにより効率よく時間を使うことができた。
- ・修学旅行を「学習」としてとらえることがすこす難しくなっており、学校での活動をリンクさせていく方向で改善を検討している。
- ・事前に教師サイドの準備をしっかりと生徒の時間に無駄がないようにする。
- ・プレゼンの方法を指導し、発表会で活用している。
- ・各クラスから実行委員3名程度。事前に実行委員で内容を整理したので、活動はスムーズに進んだ。

課題

(1) 事前・事後学習の時間数確保に関する工夫

- ・総合的な時間のまとめ取り。実施日が早いと事前学習が十分にできないことがある。
- ・係によって進度が違うので、授業時間内での設定が困難。昼休みや放課後の取り組みも行った。
- ・総合・学活を利用。放課後の活動とクラブ活動との関わり合いが課題。
- ・4月の学級づくりの期間、修学旅行についての取り組みが難しい。
- ・総合的な学習の時間を利用して時間確保に努めた。体験的な活動、自主的な活動を企画すればするほど、時間が多くかかる。
- ・体育大会の時期と重なったため、夏休みを利用した。定期考査とも重なったため事後学習が十分出なかった。

(2) 事前学習の内容

(3) 事後学習の内容

(4) その他

- ・4月下旬の実施の為事前指導は2年3学期にしている。帰校後はゴールデンウィーク・家庭訪問等の為検討の余地がある。
- ・一村一校を望んでいるが、7クラスでは困難でクラス毎の体験学習になる。(引率の全体把握が困難)
- ・2年生で夏休み宿題で沖縄新聞を作成。ゆったり時間をとっての指導は無理。費用面で課題があるので、活動内容で工夫が必要。
- ・係別の活動がどうしても放課後の取り組みになってしまうのが課題。
- ・総合学習の時間の使い方が年度によって変わると事前・事後の取り組みが不十分になる。
- ・下見の費用は規定では、実施ホテルに宿泊できず詳細がつかめず困る。
- ・総合的な学習の時間に位置づけるための取り組み内容の工夫が課題。
- ・平和学習の総仕上げに沖縄を選んだが、費用が高つくことから方面を変更せざるを得ない。
- ・事前学習が大切。修学旅行の目的を理解させる上で綿密な改革が必要。
- ・現地での取り組みを計画する時、相手先一業者一学校の連絡を密にする必要がある。
- ・実行委員会の指導に力を入れたが、時数確保が大変であった。
- ・時間割りの入れ替えが困難であった。生徒のリーダーを育て、リーダーを中心に学級での取り組みを行った。
- ・多くの時間を費やすため、計画的に早めにとりくむこと。時間をかけるに値する内容にすること。

- ・北海道の地元の人との交流(事前・事後も含めて)や産業など(農業・漁業・酪農)の学習が深められるような体験活動を取り入れていきたい。
- ・沖縄の平和学習を意義あるものにするためには十分な事前学習が大切である。
- ・時間短縮する場合は内容も削減しなければならない。体験型学習を入れると事前に時間がかかる。
- ・体験学習先を決定するのが難しい。(希望しているところに行けない、予約が取れない)
- ・総合的な学習の時間が削減されると時間の確保が難しい。パソコン利用して事前の情報集を行ったが、意外と時間がかかった。
- ・少人数のため、比較的時間にゆとりをもって準備ができた。体験学習で、訪問先の最新の情報を入手するための工夫が必要であった。
- ・事前準備と生徒指導上のおさえ。学級経営の充実。
- ・長期的見通しのもとで計画的に実施すること。
- ・学活、総合的な学習の時間に対応。生徒の取り組みを減らし、教師主導で実施。(生徒指導上の実態による。)
- ・短時間で生徒達に取り組みの達成感を与えられるようにするための指導方法の工夫
- ・週29コマを実施している。始業式・終業式にも授業を実施。
- ・新幹線の1車両に2校入るのは絶対に避けなければいけない。
- ・総合的な学習の時間を多く使えない。
- ・タイミングを考える。事後学習をどう生かしていくかを工夫。
- ・教科に影響の出ないように努力。1年時で申し込みは早すぎる。
- ・旅行会社との詳細な打ち合わせ時間の確保がむずかしい。

6・上記以外の課題

- ・宿泊行事の職員の勤務について、12時間を越えるために休憩時間を設けることが困難。
- ・修学旅行はしなくてはいけないものか。時代とともに変わらなくてよいか。
- ・学習内容以外の生徒指導に関する準備等に変な労力を費やし、無事に帰校することで成否を計る現状を変えなければと思う。
- ・航空機発着の時間帯がこちらの方で自由にならないことが課題
- ・生徒の旅行費用をできるだけ抑えること。
- ・H18,19,20と同じ時期の5月木金土でした。できれば木、金、土を望みます。
- ・参加の有無についての意思表示に課題がある生徒等と代金のキャンセル料をめぐっての交渉に配慮が必要。費用の徴収
- ・生徒数が少ないため、一人当たりの費用が高くなる。
- ・生徒数が減少して経費が高くなった。(保護者負担が大きくなった。)

アンケート調査の結果から

今日、修学旅行においても「生きる力」を育成する観点から、改めて、その意義・ねらいについての正しい理解と、充実した魅力的な企画・運営のあり方が求められている。

今回は、修学旅行の「実施状況調査」と「事前指導・事後指導」についてのアンケート調査を実施し、分析した。以下、「事前指導・事後指導」を中心に調査結果の特徴的なものを報告する。

(1) 各段階の時数から読み取れること

修学旅行はほとんどが2泊3日で行われているが、その3日間を有意義に充実させるためには事前学習が重要であることは言うまでもない。調査では、事前学習の総時数が15時間を超えた学校は31%以上、12時間以上を加えると52%を越える。領域別の使用時数は総合的な学習の時間が約57%、次いで学活が27%であり、総合的な学習の時間は関東が多く活用している。地域の特性が出ている。

事前指導・事後指導とも国語や社会、美術、技術家庭等、教科との関連を図ってはいるが、それらは時間に制約がある。そこで、総合的な学習の時間の「ねらい」から逸脱することがないよう各学校とも年間計画や指導計画の立案を図っているようである。

事後学習は約50%が5時間弱である。そのうち学級と班を合わせると8割近くになる。修学旅行が1学期の半ばを過ぎてしまうと、事後学習にそれほど時間を割くことができない。まとめの方法もさまざまな工夫がみられるが、感想文、新聞作りが6割を越える。修学旅行は楽しかった、思い出に残ったで終わらせることなく、学びの締めくくりをして、その後の生徒の「生き方」の向上につなげていく必要がある。

(2) 時数確保の工夫から学ぶこと

修学旅行の時期が毎年同一時期にはならない。5月上旬であったり7月上旬になったりもする。しかし、集約列車を使用の場合2年前に決定していることだから、それにしたがって計画を立案することになる。5月上旬実施の学校にあっては2年次からの指導計画を立てている学校がみられる。また、教科との関連を図ったり、総合的な学習の時間とリンクさせている学校が多い。また、朝学習、昼休み、放課後に調べ学習や、実行委員等の指導の時間に当てる等の工夫もみられる。また、修学旅行前に家庭訪問を実施する学校はその期間中に副担任が生徒の指導に当たることも有効ではないだろうか。

いずれにしても、十分に指導の時数を確保するためには長期的な計画を立案することが望まれる。

(3) 今後の課題（調査から見える共通の課題）

アンケート結果から、今後よりよい修学旅行を推進していくための課題として次のようなことをあげることができる。

他行事との調整を図る

教育課程のうち学校行事を計画していく際には修学旅行が優先される必要がある。1学期もさまざまな行事や教育活動を実施しているところから、学校においては前年度から教育計画を練りあげていかなければならない。その際、他の行事等が毎年一定の時期にできないことの共通理解を図ることも必要である。

また、対外的には部活動の大会（特に地区予選大会）の時期は修学旅行を避けて開催する必要がある。これには中学校体育連盟との申し合わせをしなければならない。

時数の確保を図る

学習指導要領の特別活動、旅行的・集団宿泊の行事の中に「内容に応じて各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動などに関連を図り、事前及び事後の指導を適切に行う」とある。したがって、早い時期から長期的な教育課程の全体計画を立てる必要がある。

学習方法の工夫を図る

事前学習が十分でない、事後学習でも「学び」が深まっていけない。そのために、時数が確保された上で、事前学習の工夫が図られなければならない。教科での関連させた学習はもちろんであるが、調べ学習では、ガイドブックの利用、図書室(館)の利用、インターネットの活用、現地(訪問地)の人との事前連絡等、さまざまな工夫が考えられる。特に、インターネットの活用は有効である。

まとめ

(1) 事前指導・事後指導実施の教育的意義

修学旅行は学習指導要領に「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とあるように学びの場である。

学校で学んだことを現地で学び、事後に学びを深める。それら学びの連続の中で「生きる力」が育まれていく。そこに修学旅行の教育的意義がある。

(2) 事前学習・事後学習の留意点

事前学習・事後学習とも時数を確保するのがむずかしい状況ではあるが、それらも教育課程の中に位置づけ、ねらいや生徒の実態に即して具体的、かつ長期的な計画の立案が望まれる。

それらの活動は単年度単発で終わらせることなく、資料等の蓄積を図ることによって、次年度以降の生徒の学習活動に資することも重要である。

また、生徒一人一人を生かすよう指導と評価を工夫することも必要である。

(3) 提言

修学旅行はわが国独特のものといわれており、その淵源は江戸時代の社寺参詣と考えられている。昭和33年の学習指導要領で修学旅行は教育課程に位置づけられ、翌年から修学旅行の専用列車の運行が始まった。

修学旅行は中学校生活3年間の最大のイベントと言っていいほどの学校行事である。そして、それは自然やわが国の伝統的な文化や歴史などに触れる絶好の機会である。また、未知の人やものとの触れ合いから、今までに味わったことの無い感動を覚える。それ故、生徒の大きな思い出ともなっている。

修学旅行の内容も時代とともに変わってきており、学年全体での見学地訪問から、今では班別行動や体験学習が多くの学校で行われている。各学校とも、修学旅行のねらいにそって、工夫した魅力ある修学旅行の実践に取り組んでいるところであるが、さまざまな行事や教育活動も同時にあり、指導の時間を生み出すのに苦労しているのも現実である。

今回、「修学旅行の事前学習・事後学習」のアンケート調査を実施し、更なる修学旅行の充実を目指し次の提言をする。

修学旅行の目的や役割を学校教育全体から見直し、第1学年から段階的に指導していくこと。

内外の他行事等との調整を図り、長期的な全体計画を立案することによって、指導時数を確保し指導の効率化を図ること。

学校の創意工夫を生かした指導計画の下に、事前・事後指導を通して生徒の主体的な活動を重視し、自主的・実践的な場面の増大を図り修学旅行を実施すること。

事前・事後指導においては、各教科、道徳、総合的な時間との関連を図り、学びを通して生徒の「生きる力」を育むこと。